

【OIE 情報】台湾における狂犬病の発生について

平成 25 年 8 月 13 日
動 物 衛 生 課

台湾における狂犬病の発生について、OIEへ追加報告がありましたのでお知らせいたします。本報告は2013年7月17日付けの発生報告の続報(続報12)です。

なお、本年7月16日付けの台湾政府による狂犬病確定診断の公表を受け、農林水産省は7月17日より台湾を狂犬病の非清浄地域として取り扱っており、7月25日付けで指定地域(農林水産大臣が認めている狂犬病の清浄国・地域)から削除しました。

出典:OIEウェブサイト(2013年8月12日付け)

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13895

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・発生数:16 件 (続報 12)
- ・発生日:2013 年 8 月 2 日、3 日、4 日、5 日、6 日、7 日、8 日、10 日
- ・OIE への報告日:2013 年 8 月 12 日
- ・臨床所見あり

【発生状況】

・発生場所:

- 8月2日:台東県(たいとうけん)延平郷(えんぺいきょう)
8月3日:南投県(なんとうけん)竹山鎮(たけやまちん)
8月4日:台南市(たいなんし)龍崎区(りゅうきく)
8月5日:雲林県(うんりんけん)古坑郷(ここうきょう)、南投県 仁愛郷(じんあいきょう)
8月6日:嘉義県(かぎけん)番路郷(ばんろきょう)(2件)、台中市(たいちゅうし)新社區(しんしやく)
台東県 関山鎮(かんざんちん)、台東県 東河郷(とうがきょう)
8月7日:高雄市(たかおし)阿蓮区(あれんく)、高雄市 六龜区(ろっきく)、台中市 新社區
8月8日:嘉義県 竹崎郷(たけざききょう)、南投県 魚池郷(ぎょちきょう)
8月 10 日:台東県 卑南郷(ひなんきょう)

・発生 16 件の合計(全てイタチアナグマ1頭での発生)

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
イタチアナグマ*		16	16	0	0

* : 中国イタチアナグマ(原文:Chinese Ferret-badger: Melogale moschata (Mustelidae))

【疫学情報】

- ・感染源:不明又は調査中
- ・家畜衛生試験所(国立研究所)は10頭の野生のイタチアナグマについて、直接蛍光抗体検査によって狂犬病ウイルス感染を確認した。
(台中市2頭、南投県3頭、雲林県1頭、嘉義県3頭、台南市1頭、高雄市2頭、台東県4頭)
- ・感染したイタチアナグマが回収された地域において、犬猫に対する強化ワクチン接種対応が継続され、モニタリングが実施されているところ。

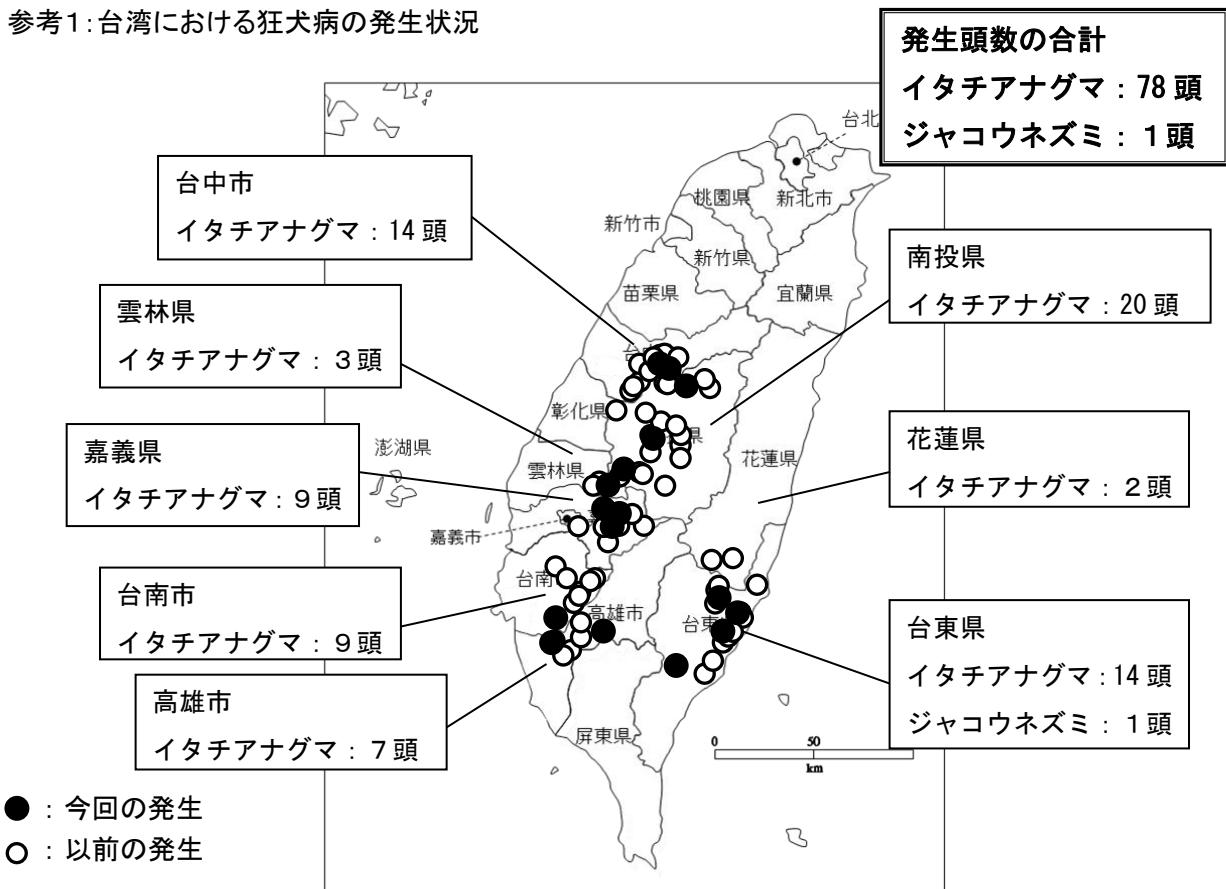
【対応】

- ・隔離 ・スクリーニング ・発生に応じたワクチン接種実施 ・患畜を治療対象としない

【診断】

直接蛍光抗体検査(FAT):陽性(2013年8月9日、10日、11日、家畜衛生試験所(国立研究所))

参考1:台湾における狂犬病の発生状況



(注) 地図上の発生地点は OIE 情報に基づく (台湾当局が公表している地図とは一致していない場合がある)

参考2:台湾行政院農業委員会家畜衛生試験所公表資料 (2013年8月5日付け)

「台湾で分離された狂犬病ウイルスの遺伝子配列分析」

<http://www.nvri.gov.tw/Module/NewsContent/400/384.aspx?nid=wzTLrADvA1c%3d&type=z04176wykT8%3d>

※本情報は、台湾行政院家畜衛生試験所が、8月5日に公表した情報について、機械翻訳等に基づき仮抄訳したものですので、正確さを求める場合には出典元のリンクも併せて御確認下さい。

- (1) 台湾のイタチアナグマから分離されたウイルス株間の糖タンパク質遺伝子 768 塩基について分析した結果
 - ・台湾の分離株間の相同意性: 91.5~99.9%
 - ・中国大陆のイタチアナグマからの分離株との相同意性: 87.8~89.6%
- (2) 台湾のイタチアナグマから分離されたウイルス株間の核タンパク質遺伝子 389 塩基について分析した結果
 - ・台湾の分離株間の相同意性: 91.5~100%
 - ・中国大陆のイタチアナグマからの分離株との相同意性: 87.7~91.3%
- (3) 台湾のジャコウネズミから分離されたウイルス株の核タンパク質遺伝子 389 塩基について分析した結果
 - ・台湾のイタチアナグマからの分離株との相同意性: 90.5~99%
 - ・中国大陆のイタチアナグマからの分離株との相同意性: 87.1~87.7%

これまでに台湾で分離されている狂犬病ウイルスの遺伝子配列を分析した結果、地域により3つのクラスターに分けることが可能。また、中国大陆の狂犬病ウイルスに非常に似ている。